

エンジョイ 園芸

耐暑性強く冬まで保存可

——永田 茂穂

夏に収穫したものが冬まで貯蔵できるウリということでトウガン（冬瓜）の名があります。原産地は東南アジア等で、つる性のウリ科一年性草本です。ほかのウリ類に比べて耐暑性が強く、野菜が不足する夏場の貴重な食材として古くから利用されています。

果肉は白く、水分が多く、風味はごく淡泊でくせがありません。豚肉との煮物やみそ汁の実、くずあんかけ、スープ等料理の幅は広いです。カリウムやビタミンCを多く含み、低カロリーでダイエット食品として見なおされてきています。また、利尿・消炎作用の効果もあります。

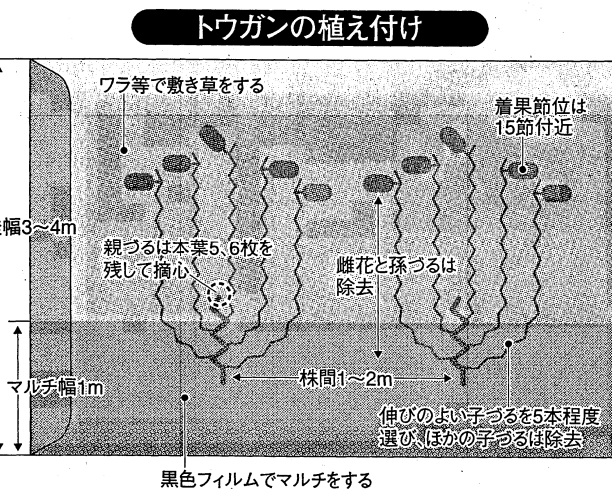
トウガンは、果実重15kgの大型から1kgの小型までさまざまな品種があります。ここでは、果実の重さ3～4kgで収穫する普通（マルチ）栽培を紹介します。

生育適温は25～30度です。排水の良いほ場を準備します。ほかのウリ類との連作は、ネコブセンチュウ等の被害が懸念されるので避けます。

植え付け時期は4月下旬～5月です。本葉3、4枚に生育した苗を準備します。畝幅は3～4m。本ほには1平方m当たりたい肥3kg、苦土石灰100gを施し、耕うんします。その後、化学肥料100g（三要素15%の場合）程度をマルチ幅（1m程度）に施し、耕うん後、畦を作り、黒色フィルムでマルチをします。残りの部分は乾燥防止、雑草対策等を兼ねて、ワラ等で敷き草をします。

株間は1～2m程度です。深植えにならないように植え付け、たっぷりかん水を行います。親づるは雌花が少ないので、本葉5、6枚を残して摘心します。伸びのよい子づるを5本程度選び、一方向に伸ばし、ほかの子づるは除去します。着果節位は15節付近とし、それ以下の雌花と孫づるは除去します。受粉は雄花を用いた人工交配で確実に着果させます。着果後かん水を行い、果実肥大を促します。

開花後、25日ごろから収穫できます。収穫後、風通しの良い所に置くと長期間保存できます。収穫適期の幅は広いですが、収穫が遅れると株への負担が大きくなります。1番果収穫後、追肥（20g程度）やかん水を行い、草勢を維持すると2、3番果まで収穫できます。



（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部長）

平成21年6月11日（木）／南日本新聞